Ⅴ　おわりに

おわりに

アフガニスタンの女性支援に関する懇談会は、平成14年2月の初会合以来3ヵ月間にわたって集中的に議論を重ね、この提言をまとめた。二次にわたり当懇談会の委員が現地を調査し、外務省、各省庁、国際協力事業団をはじめとする関係機関やNGO等と緊密な連絡をとりつつ、流動的な状況の中で最善を尽くして情報を集め、分析し、各方面と議論を重ねた。

当懇談会は、アフガニスタンでは、現に援助を必要とする女性たちが多数おり、今まさにアフガニスタンの人々の手で復興が始まりつつあるという現実を重く受けとめ、精緻で体系的・抽象的な理論付けを行うよりは、むしろスピード感をもって提言をまとめることに力を注いだ。提言は、日本が復興支援を行う上で、多様な支援分野において女性／ジェンダーの視点から何がどのように行われることが必要であるか整理し、それぞれの分野ごとの支援策の方向性を掲げるとともに、その目標を達成するための具体的支援策を挙げている。我々は、アフガニスタン女性に対する支援における日本の支援額の一定割合の確保、新たな追加資金を要求するものではない。しかし、あらゆる日本からの支援に女性／ジェンダーの視点が生かされるためにも、アフガニスタンの女性が参画し、その成果を享受できるためにどのようにすればよいかを検討し、提言した。

もちろん事態は流動的であり、提言のすべてが実行できるとは限らない。いかなる段階においても、アフガニスタンの紛争と抑圧の被害者であった女性の権利の回復とアフガニスタンの人々の主体的な意向を尊重し、女性の参画を進めることが重要である。それは、日本のアフガニスタン復興支援をより人間的により効果的に行うことにつながるものである。我々は、日本の国民が長い不況と厳しい財政の中から拠出する貴重な資金が無駄に使われることなく、真にアフガニスタンの人々、特に女性たちの役に立つよう、有効にかつ公正に活用されることを望んでいる。

当懇談会は、この提言の提出により当面の目標を達成したが、持続的な点検と評価が不可欠であることは言うまでもない。アフガニスタンを再び忘れられた国にしないためにも、また、日本の支援が目に見える成果を上げるためにも、日本国内において、政府、NGOが相携えてアフガニスタン女性支援の体制をつくり、関心を持ち続けることが必要である。政府、中でも男女共同参画会議に期待するところ大である。

また、このアフガニスタン復興における女性支援の議論を通じて、日本が復興や開発の支援に当たり、女性／ジェンダーの視点を持つことで、今まで見えなかった現実が浮かび上がり、相手国の人々にとってより効果的な支援の促進が可能であることが明らか

になった。日本ならではの支援、顔の見える支援を行う上でも、制約ある資金を生かして使う上でも、女性の参画や女性／ジェンダーの視点が不可欠である。また、日本のこうした姿勢を国連や各種の国際的援助機関に対してアピールしていくことも、日本の存在感を増す上で有効であると思われる。我々は、当懇談会での議論や提言をきっかけとして、今後とも、日本の政府、NGO、市民が女性／ジェンダーに配慮しつつ復興や開発支援にあたる体制が確立されることを、心から期待している。